

令和5年度 シラバス

沖縄県立南風原高等学校

| 科目 | 対象学年 | 単位数 | 使用教科書(会社名) | | |
|--|--|---|------------------------------------|---|--|
| 美術 I | 1年芸術選択美術 | 2 | 高校生の美術1(日本文教出版) | | |
| 1. 科目の概要 および目標 | 表現(絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像メディア)・鑑賞美術の幅広い創造活動を通して、美術を愛好する心情や感性を高め、創造的な技能と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 | | | | |
| 評価の観点 | | | | | |
| 1. 知識・技能 | | 2. 思考・判断・表現 | | 3. 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 | | ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている | | ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 | |
| 評価方法 | ★観点別評価(3 観点) ・学習活動への参加(制作へ取り組む姿勢、制作の準備・後片付けなども含む) ・作品、ワークシート(制作計画や制作の記録、自己評価、鑑賞メモなど) ・鑑賞、発表とまとめ | | | | |
| 月 | 時数 | 領域 | 単元名 | 学習目標(ねらい) | 指導内容 |
| 4 | 2 | | オリエンテーション 発想テスト | 1年間の目標と授業への姿勢を身につける 柔軟な発想を定着させる | 授業の方針や留意点等確認 思考・判断の考え方を説明する |
| 5 6 | 15 | 平面 | デッサン (基礎形体) 平面構成 モダンテクニック | 基礎的な形体を写実的に描く技術を育て、色彩についての知識を深め、色の配色を意識した構成ができる 様々な表現方法を習得し、作品制作に活かせるようにする | 観察の重要性を理解させ用具や技能を通じて表現を広げる 着彩、構成の基礎と応用を学ぶ 多様な表現方法を習得させる |
| 7 | 10 | 平面 | ネームデザイン | 身近な自己の名前からイメージ・発想できる「ネームデザイン」を制作し、構想の大切さを学ぶ | 身近なものから発想を高める方法を習得させる 形態から形の省略と強調、構成感覚、造形の工夫 |
| 9 | 2 | 工芸 | ハンカチの絞り染め | 絞り染めの技法を学び、実際に作品を制作し染めのおもしろさや良さを知る | 絞り染めの技術を利用し、創造性を働かせて染めの良さを味わう。 |
| 10 | 2 | | ハロウィンイラストデザイン | 美術活動を通じて季節行事に参加し、創造活動と社会的なつながりで楽しむ方法を学ぶ取る | 季節行事という社会的なつながりを感じさせ、自ら創造することの大切を体験させる |
| 11 | 12 | | 砂絵制作 | 素材の活用方法を学び、想像豊かな表現を行う | 絵具以外の素材によっても味わいのある作品作りができることを学ばせる |
| 12 | 12 | | 陶芸制作 シーサー・器 | 陶芸の基礎を学び、創造的に表現する 陶芸の用具、焼き窯などの役割を知る創作する | 沖縄のシーサーなど沖縄文化を探求させ作品につなげる。また、器など生活としてのもの作りの良さも学ばせる |
| 1 2 | 10 | 平面 | 紙粘土による造形 テーマ「マスコットキャラクター」 | 独自のマスコットキャラクターを立体的な視点でデザインし、紙粘土を利用して立体的創造性を育む | 地域にあるマスコットを参考にしながら、造形的な見方で制作できるよう指導する |
| 3 | 1 | | 1年の振り返り 作品返却 | これまで取り組んだ作業を客観的に振り返り、作品を大切に美術を愛好する態度を育成する | これまで頑張ってきた作品をあらためて見ることによって自己の成長を確認する。また、自己の作品を大切に美術を愛好する姿勢を育てる |

年間総時数 70 時間

令和5年度 シラバス

沖縄県立南風原高等学校

| 科目 | 対象学年 コース | 単位数 | 使用教科書(会社名) | | |
|--|---|---|------------------|---|--|
| 美術Ⅱ | 2年芸術選択美術 | 2 | 高校生の美術2 (日本文教出版) | | |
| 科目の目標 | 表現(絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像メディア等)・鑑賞美術の幅広い創造活動を通して、美術を愛好する心情や感性を高め、個性豊かに創造的な技能と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 | | | | |
| 評価の観点 | | | | | |
| 1. 知識・技能 | | 2. 思考・判断・表現 | | 3. 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 | | ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている | | ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 | |
| 評価の方法 | ★観点別評価(3観点) ・学習活動への参加(制作へ取り組む姿勢、制作の準備・後片付けなども含む) ・作品、ワークシート(制作計画や制作の記録、自己評価、鑑賞メモなど) ・鑑賞、発表とまとめ | | | | |
| 月 | 時数 | 領域 | 単元名 | 学習目標(ねらい) | 指導内容 |
| 4 5 6 7 | 1 | | オリエンテーション | 1年間の目標と授業への姿勢を身につける | 授業の方針や留意点等確認 |
| | 4 | 平面 | 手のデッサンとトリックアート | 手をよく観察し生体的な新しい発見をすると同時に立体的な表現を身につける。また、鉛筆デッサンを利用してトリックアートを楽しむ | 安易に輪郭を見るのではなく、見えない部分を構造的な視点で見させる。平面に描くおもしろさをトリックアートを使って学ぶ |
| | 6 | 平面 | エコバック作り | 手作りのデザイン印を作成し、版の良さをいかりながら独自のエコバックを制作する | 実際に利用できるエコバックを個々の表面デザインを考案させ、版の特性を知る。 |
| | 8 | 絵画 | 心象風景 | 風景にはいろいろなものがあり、自分の心の中の風景を作り出す。 | 風景の魅力と自己の心の中を共鳴させ、独自の世界観を作り出す能力を育む |
| | 8 | 平面 | スクラッチ | スクラッチによる表現方法を学び、線による表現を楽しむ。テーマ「動物や人」 | 描き加えるだけでなく、削ることで表す線の魅力を感じさせイメージを具現化させる |
| 9 | 8 | 絵画 | 木版画 | 自分でテーマを設定し、表現内容を工夫しながら木版を完成させ版の刷る楽しさと良さを知る | 木版の技術を理解し、どのように工夫するか考え作業にあたる。 |
| 10 | 4 | 平面 | ハロウィンイラスト | 美術活動を通じて季節行事に参加し、創造活動を楽しむ | 季節行事を美術を通して参加し楽しむことと美術の働きを学ぶ |
| 11 | 6 | 工芸 | 陶芸「タタラ絵制作」 | タタラ板の制作方法を習得し、彩色を楽しむ陶芸の多様な表現方法を知る | 陶芸における平面的な装飾法を学ばせ多様な表現を習得させる |
| 12 | 4 | 平面 | クリスマスイラスト | 美術活動を通じて季節行事に参加し、創造活動を楽しむ | 季節行事を美術を通して参加し楽しむことと美術の働きを学ぶ |
| 1 2 | 10 | 平面 | パッケージデザイン | ペーパークラフトを理解する中から、商品的価値を生み出す技術やアイデアを学び取る | 商業的な意味を理解する中から、独自のデザインアイデアの良さを知る |
| 3 | 1 | 工芸 | 1年の振り返り 作品返却 | これまで取り組んだ作業を客観的に振り返り、作品を大切にし美術を愛好する態度を育成する | それぞれの単元が多様な表現があり、これからの生活にもいかせられるようワークシートを使って行う。作品を大切に作る姿勢を確立する |

年間配当時間：70時間

令和5（2023）年度 音楽Ⅰ シラバス

| | | | | | | | |
|------------------|---|---|--|----------------|---|----|----|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽Ⅰ | 単位数 | 2 | 対象 | 1年 |
| 科目の分類 | 必履修 芸術（選択 音楽） | | 履修順序 | 音楽Ⅰを履修後、音楽Ⅱを履修 | | | |
| 科目の目標 | 1. 多様な表現活動を通して、演奏技術の伸長や表現意欲の向上を図る。 2. 身近にある音楽やその他の幅広い音楽に親しみ、鑑賞能力を養う。 | | | | | | |
| 教科書 主な教材 | ・「MOUSA1」（教育芸術社） | | | | | | |
| 学習内容 （概要） | ・表現（歌唱、器楽、創作）および鑑賞 （中学校音楽の復習をはじめ、主体的に学習する課題（教材曲）選択も含む） | | | | | | |
| 学習の ポイント | 毎時間：既習曲の歌唱 題材ごと：実技練習、ワークシート学習、実技テスト | | | | | | |
| 到達目標 | ・基礎的視奏力を身につけ、表現活動（歌唱・器楽）に活かすことができるようにする。 ・個人が得意とする表現活動（歌唱・器楽）の力を伸ばす。 | | | | | | |
| 評価の方法 | ① 授業態度 ② 準備物 ③ 授業での提出物 ④ 実技練習 ⑤ 題材ごとの評価の観点 ⑥ 実技試験及び筆記テストをもって評価する。 | | | | | | |
| 学習の展開＜年間指導計画の概要＞ | | | | | | | |
| | 時 数 | 単元または項目 | 学習のねらい | | 主な学習活動（教材等） | | |
| 一 学 期 | 1 3 4 | ① オリエンテーション ② 校歌を歌おう ③ みんなで歌おう | ① 個人の興味関心を調べる。 ② 南風原高生の自覚と愛校心を養う。 ③ 歌う楽しさを感じる。 | | ① 音楽実態調査と授業での約束確認。 ② 南風原高等学校校歌を覚える。 ③ 姿勢、呼吸法、口形など発声の基本を学習する。 | | |
| | 4 8 4 | ① 楽典(1) ② ハーモニーの響き(1) ③ ミュージカル | ① 音符記号や音の高さなど、基本的な楽譜の記号について理解する。 ② 発声、発音に注意しながら他パートの響きを味わう。 ③ ミュージカルの音楽形態や歴史について理解する。 | | ① 楽譜中の記号について理解する。 ② 他のパートをよく聴いて歌う。 ③ 鑑賞を通して音楽形態や歴史を学び、音楽表現とストーリーとの関わりを感得する。 | | |
| | 4 4 4 6 | ① 郷土の音楽 三線(1) ② イタリア歌曲に挑戦しよう ③ 楽典(2) ④ ハーモニーの響き(2) | ① 郷土の音楽に親しみながら、三線の奏法について理解する。 ② 歌詞や曲想を理解して表現の工夫ができるようにする。 ③ 楽譜を読むために必要な記号を理解する。 ④ 言葉について理解を深めながら、他声部との音の重なりを考え表現する。 | | ① 三線の基本的な扱いについて学ぶ。 ② 外国語の歌詞に慣れ親しんで歌う。 ③ 基礎的な音楽記号を学習する。 ④ 詞の内容を考えながら、音楽表現へつなげられるよう工夫する。 | | |
| 二 学 期 | 4 4 4 | ⑤ 郷土の音楽(2) ⑥ ハンドベルの響き ⑦ オーケストラの響き | ⑤ 簡単な曲を演奏できるようにする。 ⑥ 一人 2~3 音を担当し、グループで協力し1曲完成させる。 ⑦ 様々な楽器の音色や特徴を味わう。 | | ⑤ 三線で簡単な曲を弾く。 ⑥ ハンドベル(トンチャイム)で合奏する。 ⑦ 様々な楽器の音色や特徴に関心を持って鑑賞する。 | | |
| | 4 5 5 2 | ① 卒業の音楽 ② ギターを演奏しよう ③ ワールド・ミュージック ④ 1年間のまとめ | ① 卒業生を祝う気持ちを高める。 ② ギターの特徴を理解し、基本的な奏法を練習する。 ③ 各地の音楽を感受し、音楽文化の違いを理解する。 ④ 学習の成果を再確認し、次年度への意欲を高める。 | | ① 卒業式で演奏する歌を練習する。 ② 音階を使用した曲を演奏する。 ③ 各地の音楽を感受し、楽曲の生まれた背景を理解する。 ④ 1年間の学習を振り返る。 | | |
| | 総 時 数 | 70 | | | | | |

令和5（2023）年度 音楽Ⅱ シラバス

| | | | | | | | |
|------------------|--|-------------------------------|---|----------------------|-------------------------------------|----|----|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽Ⅱ | 単位数 | 2 | 対象 | 2年 |
| 科目の分類 | 必履修 芸術（選択 音楽） | | 履修順序 | 音楽Ⅰを履修後、音楽Ⅱを履修 | | | |
| 科目の目標 | 1. 多様な表現活動を通して、演奏技術の伸長や表現意欲の向上を図る。 2. 身近にある音楽やその他の幅広い音楽に親しみ、鑑賞能力を養う。 | | | | | | |
| 教科書 主な教材 | ・「MOUSA2」(教育芸術社) | | | | | | |
| 学習内容 (概要) | ・表現（歌唱、器楽、創作）および鑑賞 (前年度の復習をはじめ、主体的に学習する課題（教材曲）選択も含む) | | | | | | |
| 学習の ポイント | 毎時間：既習曲の歌唱 題材ごと：実技練習、ワークシート学習、実技テスト | | | | | | |
| 到達目標 | ・個人が得意とする表現活動（歌唱・器楽）の力を伸す。 ・生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を育てる。 | | | | | | |
| 評価の方法 | ①授業態度 ②準備物 ③授業での提出物 ④実技練習 ⑤題材ごとの評価の観点 ⑥学期末考査及び実技試験をもって評価する。学期末考査についてはペーパーテストを実施する。 | | | | | | |
| 学習の展開＜年間指導計画の概要＞ | | | | | | | |
| | 単元または項目 | | 学習のねらい | | 主な学習活動（教材等） | | |
| 一学期 | 1 | ①オリエンテーション | ①個人の興味関心を調べる。 | | ① 音楽実態調査と授業での約束確認。 | | |
| | 1 | ②校歌を歌おう | ②南風原高生の自覚と愛校心を養う。 | | ② 南風原高等学校校歌を歌う。 | | |
| | 4 | ③みんなで歌おう | ③仲間と歌う楽しさを味わう。 | | ③ 姿勢、呼吸法、口形など発声の基本を学習する。 | | |
| | 8 | ④ギターを演奏しよう | ④クラシックギターの特徴と基本的な奏法を練習し、コードネームを用いた演奏にチャレンジする。 | | ④ クラシックギターの奏法を身につける。 | | |
| | 6 | ⑤日本歌曲を歌おう | ⑤日本語の美しさを感じながら、美しい重唱の響きをつくる。 | | ⑤ 曲想や詞の意味を理解し、美しい発声を意識して歌唱しようとしている。 | | |
| | 4 | ⑥楽典・音名とコードネーム | ⑥日本・イタリア・ドイツ・英語による音の名前を理解するとともに、読譜力を高める。 | | ⑥ 楽典について積極的に知ろうとしている。 | | |
| 一学期 | 6 | ①歌曲の世界 | ①歌詞や曲想を理解して表現の工夫ができるようになる。 | | ① 外国語の歌詞に慣れ親しんで歌う。 | | |
| | 6 | ②鑑賞 歌舞伎の世界 | ②歌舞伎についての歴史を理解する。 | | ② 歌舞伎について理解する。 | | |
| | 8 | ③キーボードで演奏しよう | ③音符、休符、音名を正しく読んで演奏できるようにする。 | | ③旋律をキーボードを用いて片手で演奏する。 | | |
| | 5 | ⑤バレエの世界 | ⑤バレエについての歴史を理解する。 | | ③ バレエについて理解する。 | | |
| 5 | ⑥ハンドベルの響き | ⑥一人2～3音を担当し、グループの協力で1曲を完成させる。 | | ④ ハンドベル(トチャイム)で合奏する。 | | | |
| 三学期 | 4 | ①卒業の音楽 | ①卒業生を祝う気持ちを高める。 | | ① 卒業式で演奏する歌を練習する。 | | |
| | 10 | ②合奏を楽しもう | ②リズムの特徴や楽器の音色を感じながら、表現を工夫して合奏を楽しむ。 | | ②これまでの学習を生かし、各グループで合奏に挑戦し発表する。 | | |
| | 2 | ③1年間のまとめ | ③生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を育てる。 | | ③高校音楽および、これまで(幼小中高)の音楽授業を振り返る。 | | |
| 総時数 | 70 | | | | | | |

令和5年度 書道I シラバス

沖縄県立南風原高等学校

| 科目名 | 単位数 | 学年 | コース | 必修・選択 | 使用教科書 |
|-----|-----|----|------|-------|------------|
| 書道I | 2 | 1年 | 全コース | 選択必修 | 書道I (東京書籍) |

1. 科目の概要及び目標

- (1) 小・中学校で国語科書写の学習を基礎とし、表現・鑑賞など書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てる。
- (2) 書に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。

2. 成績評価

(1) 知識・技能

- ・取り扱う古典について理解しているか。
- ・各課題の特徴や筆遣いを意識しながら書くことができているか。
- ・各課題のポイントを理解しているか。

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・臨書や創作において、特徴を表現するための工夫点や改善方法を考えられているか。
- ・各課題について理解した上で、適切に自己評価を自身に付けることができているか。

(3) 主体的な学習に取り組む態度

- ・毎時間のプリント学習の内容や練習に取り組む態度(枚数等)がきちんとできているか。
- ・各課題への取り組みに自分なりの工夫を加えているか。

* (1)、(2)、(3) それぞれの観点で、上記の内容を状況を踏まえ総合的に評価する。

3. 授業の展開と形態

小・中学校での書写教育から芸術書道へ移行するにあたり、書道の幅広い活動を通して、書を愛する心情を育てる。

書には多くの表現方法がある事を理解することにより、自身の表現の幅を広げることを目的とする。

4. 学習方法

「漢字」「仮名」の様々な古典を学習する過程で基本的な用筆・運筆方法や鑑賞能力を高める。

古典の学習から幅広い表現方法を学び、「漢字仮名交じりの書」にて意図に基づいた作品を制作を行う。

5. 年間学習計画

1 学期 ◎漢字の書(楷書の学習)・・・4～7月

- ・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。
- ・「表現の手がかり」として臨書する。

2 学期 ◎漢字の書(行書の学習)・・・9～10月

- ・行書の特徴を理解する。
- ・行書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。
- ・「表現の手がかり」として臨書する。

◎漢字の書(隸書の学習)・・・11月

- ・隸書の特徴を理解する。
- ・行書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。
- ・「表現の手がかり」として臨書する。

◎漢字の倣書・・・12月

- ・創作の手順に従い、漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作し、相互評価をする。

3 学期 ◎仮名の書・・・1月

- ・仮名の成立と変遷を理解し、仮名の用具用材の特徴を理解する。
- ・古典の概要を理解し、用筆、運筆、全体構成について理解し、「表現の手がかり」として臨書する。

◎漢字仮名交じりの書・・・2～3月

- ・漢字仮名交じりの書の変遷を理解する。
- ・古典の特徴を生かしたり、用具用材を変えたりすることで、表現に変化を付けられる事を理解する。
- ・書き方の工夫によってさまざまな表現ができる事を理解し、どのような表現をしたいかという意図に合うかどうかを考える。

令和5年度 書道Ⅱシラバス

沖縄県立南風原高等学校

| 科目名 | 単位数 | 学年 | コース | 必修・選択 | 使用教科書 |
|-----|-----|----|------|-------|-----------|
| 書道Ⅱ | 2 | 2年 | 全コース | 選択必修 | 書道Ⅱ（東京書籍） |

1. 科目の概要及び目標

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 成績評価

- (1) 知識・技能
 - ・取り扱う古典について理解しているか。
 - ・各課題の特徴や筆遣いを意識しながら書くことができているか。
 - ・各課題のポイントを理解しているか。
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ・臨書や創作において、特徴を表現するための工夫点や改善方法を考えられているか
 - ・各課題について理解した上で、適切に自己評価を自身に付けることができているか。
- (3) 主体的な学習に取り組む態度
 - ・毎時間のプリント学習の内容や練習に取り組む態度(枚数等)がきちんとできているか。
 - ・各課題への取り組みに自分なりの工夫を加えているか。

* (1)、(2)、(3) それぞれの観点で、上記の内容を状況を踏まえ総合的に評価する。

3. 授業の目標及び展開と形態

- ・書道Ⅱの授業においての創造的な活動を通して、更に書を愛好する心情を育てる。
- ・多くの古典や書体に触れることにより、漢字の変遷への理解を更に深め、多様な表現方法から自身のテーマにそった作品を創造することができる。

4. 学習方法

- ・篆刻、刻字をすることにより、篆書・隸書への理解を深め、落款への理解を深める。
- ・多くの表現方法を学ぶことで感性を高め、自身の中でテーマ設定した創作作品を作る。

5. 年間学習指導計画

| 月 | 学習内容 | 時間 | 月 | 学習内容 | 時間 |
|----------|---|----|----------|---|----|
| 4 5 | 漢字の書① ・漢字の変遷 ・篆書 篆刻 ・自用印の制作 | 12 | 11 12 | 漢字の書② ・草書 | 8 |
| 6 7 | 漢字の書② ・隸書(礼器碑・張遷碑) ・臨書作品制作 | 10 | 1 2 | 刻字 ・隸書にて原稿作り ・彫り方の説明(陽刻・陰刻) ・彫る ・着色 | 10 |
| 9 10 | 創作① ・表現方法の理解 ①紙の中での文字の位置 ②文字の外形 ③線の太さ、長さ ④線質の違い ⑤墨の濃淡 ⑥紙の違い | 12 | 2 3 | 実用書 ・履歴書・のし袋の書き方 ・今後の生活で出てくる実用書の書き方を学び生きる力を養う | 8 |
| 10 11 | 創作② ・創作テーマの決定・表現方法の選択 ・創作意図の設定 ・創作作品の製作・清書・押印 ・裏打ちの効果、方法説明 ・裏打ち作業 ・創作作品の完成 ・創作作品の発表会 | 10 | | | |

総時数70

令和5年度 郷土の音楽シラバス(芸術)

1. 郷土の音楽の目標

- ・郷土の音楽を学び主に歌三線の演奏技法を取得する。
- ・郷土の文化歴史に興味関心を持ち、主体的に幅広く学ぶ。
- ・豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|-------|-----|-----|-------|-------|
| 郷土の音楽 | 4 | 2学年 | 選択必修 | 郷土文化 |

3. 成績評価

郷土の音楽の評価は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-------------------|---|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽の楽しさや演奏する喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして郷土の音楽に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・服装の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 思考力・判断力 表現力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら古典音楽や琉球民謡の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して演奏を行うとともに、歌三線の演奏法や琉球楽器の演奏法の技能を高めている ・創意工夫を生かした演奏表現をするための基本的な演奏技能を身に付け、古典音楽や民謡の構造を知り、創造的に音楽表現を工夫している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・発表 ・他者の演奏を評価 |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球古典音楽工工四、宮良長包作曲集、五線譜による沖縄民謡、その他(DVDやYouTubeなど)

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。

6. 学習方法

- ①琉球楽器の種類の色や奏法の違い、効果、楽曲に与える影響などを知り、楽しさを味わう。
- ②独唱・合唱など、楽曲や演奏形態の変化に対応できるよう学習する。
- ③郷土文化における作法や技術を習得する。
- ④沖縄の文化や歴史、琉歌の解釈や意味を理解し学習することができる。
- ⑤社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式に繋げて応用することができる。

令和5年度 郷土の音楽シラバス(芸術)

1. 郷土の音楽の目標

- ・郷土の音楽を学び主に歌三線の演奏技法を取得する。
- ・郷土の文化歴史に興味関心を持ち、主体的に幅広く学ぶ。
- ・豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|-------|-----|-----|-------|-------|
| 郷土の音楽 | 4 | 2学年 | 選択必修 | 郷土文化 |

3. 成績評価

郷土の音楽の評価は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-------------------|---|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽の楽しさや演奏する喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして郷土の音楽に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・服装の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 思考力・判断力 表現力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら古典音楽や琉球民謡の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して演奏を行うとともに、歌三線の演奏法や琉球楽器の演奏法の技能を高めている ・創意工夫を生かした演奏表現をするための基本的な演奏技能を身に付け、古典音楽や民謡の構造を知り、創造的に音楽表現を工夫している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・発表 ・他者の演奏を評価 |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球古典音楽工工四、宮良長包作曲集、五線譜による沖縄民謡、その他(DVDやYouTubeなど)

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。

6. 学習方法

- ①琉球楽器の種類の色や奏法の違い、効果、楽曲に与える影響などを知り、楽しさを味わう。
- ②独唱・合唱など、楽曲や演奏形態の変化に対応できるよう学習する。
- ③郷土文化における作法や技術を習得する。
- ④沖縄の文化や歴史、琉歌の解釈や意味を理解し学習することができる。
- ⑤社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式に繋げて応用することができる。

令和5年度 琉球舞踊シラバス (芸術)

1. 琉球舞踊の目標

- ・沖縄の音楽になれ、基本的所作を取得する。
- ・郷土文化の歴史に興味・関心を持つ。
- ・豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。
- ・個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|------|-----|-----|-------|-------|
| 琉球舞踊 | 6 | 3学年 | 選択必修 | 郷土文化 |
| 選択C | 2 | 3学年 | 選択必修 | 普通総合 |

3. 成績評価

琉球舞踊の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-----------|---|---|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・作法（正座・姿勢・道具の扱いなど）が身に付いている。 ・沖縄の文化に関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・服装の確認 ・学習カード |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら琉球舞踊の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して所作を行うとともに、琉球舞踊の技能を高めている。 ・創意工夫を生かした琉球舞踊を表現するための段階的な技能を身に付け、創造的に表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・実技テスト ・筆記テスト ・発表 |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして琉球舞踊に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・ワークノートの確認 ・筆記テスト |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球舞踊曲大全集、琉球舞踊入門編、琉球舞踊の世界～私の鑑賞法～など
- ・動画資料：DVD、YouTubeなど

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。
- ・選択Cにおいては、5組～10組までの琉球舞踊選択者の合同授業を行う。

6. 学習方法

- ①琉球舞踊(「古典舞踊・雑踊り・創作」など、それぞれの所作を覚え一人またはグループで踊ることができる。
- ②歩み、所作、リズムなど、基本的な動きとそれぞれの違いを知る。
- ③個人・ペア・グループなど、隊形の変化に対応できるよう学習する。
- ④座学や校外実習などを通して琉球舞踊に関連する音楽や所作などの作りや背景を知る。
- ⑤琉装・和装における着付け、結髪、化粧の技術を習得する。
- ⑥郷土文化における作法や技術を習得する。
- ⑦沖縄の文学や歴史、衣食住などに関連付けて学習することができる。
- ⑧個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

7. 年間指導計画

| 期 | 一学期 | | | | | | | | | | | | 二学期 | | | | | | | | | | 三学期 | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|----|-----------|----|----|----|----|----|
| | 4 | | | 5 | | | 6 | | | 7 | | | 9 | | | 10 | | | 11 | | | | 12 | | | 1 | | 2 | | 3 | | | | | |
| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 琉球舞踊(主科) | 1年(4単位) | 習・シオリ(6) 古典舞踊:かぎやて風(10) 若衆ゼイ(8) 創作舞踊:夢南瓜(6) 扮装法:着付け①(6) 郷土文化:南風原町について(6) 試験・発表:テスト(6) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:四つ竹(8)上り口説(10) 創作舞踊:貴花遊びと美ら島エイサー(14) 扮装法:着付け②化粧(6) 郷土文化:郷土文化コース紹介作成(6) 琉歌について(6) 試験・発表:テスト(6) | | | | | | | | | | 古典舞踊:かぎやて風(2) 創作舞踊:打破(10) 扮装法:着付け②化粧(4) 郷土文化:沖縄産業について(2) 校外学習:歌碑巡り(10) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | まとめ(4) 鑑賞 | | | | | |
| | 2年(4単位) | 古典舞踊:かぎやて風・女役(6) 創作舞踊:シャラフン(4) 八重山舞踊:鷲の鳥(8)鳩間節(8) 扮装法:着付け①(6) 郷土文化:南風原町の行事①(6) 試験・発表:テスト(8) | | | | | | | | | | | | 雑踊り:取納奉行(12) 創作舞踊:かりゆし太鼓(10) 八重山舞踊:小浜節(10) 扮装法:着付け②化粧(8) 郷土文化:郷土文化コース紹介作成(8) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | | | | | 創作舞踊:かりゆし太鼓(6) 扮装法:着付け②化粧(6) 郷土文化:琉歌について(6) 校外学習:歌碑巡り(10) 試験・発表:テスト発表(4) | | | | | | まとめ(2) 鑑賞 | | | | | |
| | 3年(6単位) | 古典舞踊:揚作田(10) 雑踊り:鳩間節(2)貴花(4) 八重山舞踊:赤馬節(8)鳩間節(6) 組踊り:執心鐘入(4) 扮装法:着付け①(4) 郷土文化:世界遺産・沖縄の地図(4) 校外実習:交流&発表(6)施設見学(6) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:港くり節(6) 雑踊り:加那コ(6)谷茶前(8) 八重山舞踊:マミド(6)慶ぬ鳥(6) 小浜節(6)大魚節(6) 創作舞踊:小道具を使った創作(10) 扮装法:着付け②結髪①化粧①(8) 郷土文化:伝統工芸・コース紹介作成(12) 校外学習:交流&発表(12)歌碑巡り(16) 試験・発表:テスト(10) | | | | | | | | | | 八重山舞踊:鳩間節(2) 創作舞踊:わらべうた(6) 扮装法:着付け・結髪(4) 郷土文化:伝統工芸体験(6) 校外学習:歌碑・施設(12) 試験・発表:テスト(4) まとめ:(2) | | | | | | | | | | | |
| | 選択C(2単位) | 古典舞踊:かぎやて風(14)創作舞踊:夢南瓜(8)試験・発表(4) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:かぎやて風(4)創作舞踊:貴花遊びと美ら島エイサー(8)安波節(6)ポップス(14)扮装:着付け①(4)試験・発表:テスト・鑑賞・まとめ(10) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 副科 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和5年度 琉球舞踊シラバス (芸術)

1. 琉球舞踊の目標

- ・沖縄の音楽になれ、基本的所作を取得する。
- ・郷土文化の歴史に興味・関心を持つ。
- ・豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。
- ・個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|------|-----|-----|-------|-------|
| 琉球舞踊 | 6 | 3学年 | 選択必修 | 郷土文化 |
| 選択C | 2 | 3学年 | 選択必修 | 普通総合 |

3. 成績評価

琉球舞踊の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-----------|---|---|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・作法（正座・姿勢・道具の扱いなど）が身に付いている。 ・沖縄の文化に関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・服装の確認 ・学習カード |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら琉球舞踊の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して所作を行うとともに、琉球舞踊の技能を高めている。 ・創意工夫を生かした琉球舞踊を表現するための段階的な技能を身に付け、創造的に表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・実技テスト ・筆記テスト ・発表 |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして琉球舞踊に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・ワークノートの確認 ・筆記テスト |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球舞踊曲大全集、琉球舞踊入門編、琉球舞踊の世界～私の鑑賞法～など
- ・動画資料：DVD、YouTubeなど

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。
- ・選択Cにおいては、5組～10組までの琉球舞踊選択者の合同授業を行う。

6. 学習方法

- ①琉球舞踊(「古典舞踊・雑踊り・創作」など、それぞれの所作を覚え一人またはグループで踊ることができる。
- ②歩み、所作、リズムなど、基本的な動きとそれぞれの違いを知る。
- ③個人・ペア・グループなど、隊形の変化に対応できるよう学習する。
- ④座学や校外実習などを通して琉球舞踊に関連する音楽や所作などの作りや背景を知る。
- ⑤琉装・和装における着付け、結髪、化粧の技術を習得する。
- ⑥郷土文化における作法や技術を習得する。
- ⑦沖縄の文学や歴史、衣食住などに関連付けて学習することができる。
- ⑧個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

7. 年間指導計画

| 期 | 一学期 | | | | | | | | | | | | 二学期 | | | | | | | | | | 三学期 | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|----|-----------|----|----|----|----|----|
| | 4 | | | 5 | | | 6 | | | 7 | | | 9 | | | 10 | | | 11 | | | | 12 | | | 1 | | 2 | | 3 | | | | | |
| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 琉球舞踊(主科) | 1年(4単位) | 習・シオリ(6) 古典舞踊:かぎやて風(10) 若衆ゼイ(8) 創作舞踊:夢南瓜(6) 扮装法:着付け①(6) 郷土文化:南風原町について(6) 試験・発表:テスト(6) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:四つ竹(8)上り口説(10) 創作舞踊:貴花遊びと美ら島エイサー(14) 扮装法:着付け②化粧(6) 郷土文化:郷土文化コース紹介作成(6) 琉歌について(6) 試験・発表:テスト(6) | | | | | | | | | | 古典舞踊:かぎやて風(2) 創作舞踊:打破(10) 扮装法:着付け②化粧(4) 郷土文化:沖縄産業について(2) 校外学習:歌碑巡り(10) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | まとめ(4) 鑑賞 | | | | | |
| | 2年(4単位) | 古典舞踊:かぎやて風・女役(6) 創作舞踊:シャラフン(4) 八重山舞踊:鷲の鳥(8)鳩間節(8) 扮装法:着付け①(6) 郷土文化:南風原町の行事①(6) 試験・発表:テスト(8) | | | | | | | | | | | | 雑踊り:取納奉行(12) 創作舞踊:かりゆし太鼓(10) 八重山舞踊:小浜節(10) 扮装法:着付け②結髪(8) 郷土文化:郷土文化コース紹介作成(8) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | | | | | 創作舞踊:かりゆし太鼓(6) 扮装法:着付け②化粧(6) 郷土文化:琉歌について(6) 校外学習:歌碑巡り(10) 試験・発表:テスト発表(4) | | | | | | まとめ(2) 鑑賞 | | | | | |
| | 3年(6単位) | 古典舞踊:揚作田(10) 雑踊り:鳩間節(2)貴花(4) 八重山舞踊:赤馬節(8)鳩間節(6) 組踊り:執心鐘入(4) 扮装法:着付け①(4) 郷土文化:世界遺産・沖縄の地図(4) 校外実習:交流&発表(6)施設見学(6) 試験・発表:テスト(4) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:港くり節(6) 雑踊り:加那コ(6)谷茶前(8) 八重山舞踊:マミド(6)慶ぬ鳥(6) 小浜節(6)大魚節(6) 創作舞踊:小道具を使った創作(10) 扮装法:着付け②結髪①化粧①(8) 郷土文化:伝統工芸・コース紹介作成(12) 校外学習:交流&発表(12)歌碑巡り(16) 試験・発表:テスト(10) | | | | | | | | | | 八重山舞踊:鳩間節(2) 創作舞踊:わらべうた(6) 扮装法:着付け・結髪(4) 郷土文化:伝統工芸体験(6) 校外学習:歌碑・施設(12) 試験・発表:テスト(4) まとめ:(2) | | | | | | | | | | | |
| | 選択C(2単位) | 古典舞踊:かぎやて風(14)創作舞踊:夢南瓜(8)試験・発表(4) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊:かぎやて風(4)創作舞踊:貴花遊びと美ら島エイサー(8)安波節(6)ポップス(14)扮装:着付け①(4)試験・発表:テスト・鑑賞・まとめ(10) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 副科 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和5年度 郷土の音楽シラバス(芸術)

1. 郷土の音楽の目標

- ・郷土の音楽を学び主に歌三線の演奏技法を取得する。
- ・郷土の文化歴史に興味関心を持ち、主体的に幅広く学ぶ。
- ・豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|-------|-----|-----|-------|-------|
| 郷土の音楽 | 4 | 2学年 | 選択必修 | 郷土文化 |

3. 成績評価

郷土の音楽の評価は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-------------------|---|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽の楽しさや演奏する喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして郷土の音楽に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・服装の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 思考力・判断力 表現力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら古典音楽や琉球民謡の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して演奏を行うとともに、歌三線の演奏法や琉球楽器の演奏法の技能を高めている ・創意工夫を生かした演奏表現をするための基本的な演奏技能を身に付け、古典音楽や民謡の構造を知り、創造的に音楽表現を工夫している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・発表 ・他者の演奏を評価 |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球古典音楽工工四、宮良長包作曲集、五線譜による沖縄民謡、その他(DVDやYouTubeなど)

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。

6. 学習方法

- ①琉球楽器の種類の色や奏法の違い、効果、楽曲に与える影響などを知り、楽しさを味わう。
- ②独唱・合唱など、楽曲や演奏形態の変化に対応できるよう学習する。
- ③郷土文化における作法や技術を習得する。
- ④沖縄の文化や歴史、琉歌の解釈や意味を理解し学習することができる。
- ⑤社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式に繋げて応用することができる。

令和5年度 琉球舞踊シラバス (芸術)

1. 琉球舞踊の目標

- ・沖縄の音楽になれ、基本的所作を取得する。
- ・郷土文化の歴史に興味・関心を持つ。
- ・豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。
- ・個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

2. 単位数

| 科目名 | 単位数 | 学年 | 必修・選択 | 対象コース |
|------|-----|-----|-------|-------|
| 琉球舞踊 | 6 | 3学年 | 選択必修 | 郷土文化 |
| 選択C | 2 | 3学年 | 選択必修 | 普通総合 |

3. 成績評価

琉球舞踊の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-----------|---|---|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・作法（正座・姿勢・道具の扱いなど）が身に付いている。 ・沖縄の文化に関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・服装の確認 ・学習カード |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して活動の仕方を考え、工夫している。 ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら琉球舞踊の表現を工夫し、表現意図をもっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・筆記テスト ・実技テスト |
| 技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して所作を行うとともに、琉球舞踊の技能を高めている。 ・創意工夫を生かした琉球舞踊を表現するための段階的な技能を身に付け、創造的に表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・実技テスト ・筆記テスト ・発表 |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして琉球舞踊に対する理解を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・ワークノートの確認 ・筆記テスト |

4. 使用教科書等

- ・参考資料：琉球舞踊曲大全集、琉球舞踊入門編、琉球舞踊の世界～私の鑑賞法～など
- ・動画資料：DVD、YouTubeなど

5. 授業の展開と形態

- ・郷土文化コースにおいては1クラスを郷土の音楽(主に三線)、琉球舞踊、古武術に分け(主科)、一斉または合同授業を行う。またその他の専門科目を副科として学習する。
- ・選択Cにおいては、5組～10組までの琉球舞踊選択者の合同授業を行う。

6. 学習方法

- ①琉球舞踊(「古典舞踊・雑踊り・創作」など、それぞれの所作を覚え一人またはグループで踊ることができる。
- ②歩み、所作、リズムなど、基本的な動きとそれぞれの違いを知る。
- ③個人・ペア・グループなど、隊形の変化に対応できるよう学習する。
- ④座学や校外実習などを通して琉球舞踊に関連する音楽や所作などの作りや背景を知る。
- ⑤琉装・和装における着付け、結髪、化粧の技術を習得する。
- ⑥郷土文化における作法や技術を習得する。
- ⑦沖縄の文学や歴史、衣食住などに関連付けて学習することができる。
- ⑧個人・社会生活の中で身近にある音楽やその他の生活様式につなげて応用することができる。

7. 年間指導計画

| 期 | 一学期 | | | | | | | | | | | | 二学期 | | | | | | | | | | 三学期 | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|-----|---|----|--|----|----|----|--|----|-----------------------|----|----|----|-----------------------|
| | 4 | | | 5 | | | 6 | | | 7 | | | 9 | | | 10 | | | 11 | | | | 12 | | | 1 | | 2 | | 3 | | | | | | |
| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | |
| 琉球舞踊(主科) | 1年(4単位) | 習・シオリ 科・エン 目・体 選・験 定・学 | | | | | | | | | | | | 古典舞踊：かぎやて風(10) 若衆ゼイ(8) 創作舞踊：夢南瓜(6) 扮装法：着付け①(6) 郷土文化：南風原町について(6) 試験・発表：テスト(6) | | | | | | | | | | 古典舞踊：四つ竹(8)上り口説(10) 創作舞踊：貴花遊びと美ら島エイサー(14) 扮装法：着付け②化粧(6) 郷土文化：郷土文化コース紹介作成(6) 琉歌について(6) 試験・発表：テスト(6) | | | | | | 古典舞踊：かぎやて風(2) 創作舞踊：打破(10) 扮装法：着付け②化粧(4) 郷土文化：沖縄産業について(2) 校外学習：歌碑巡り(10) 試験・発表：テスト(4) | | | | | | ま と め 鑑 賞 |
| | 2年(4単位) | オリエンテーション | | | | | | | | | | | | 古典舞踊：かぎやて風・女役(6) 創作舞踊：シャラフン(4) 八重山舞踊：鷲の鳥(8)鳩間節(8) 扮装法：着付け①(6) 郷土文化：南風原町の行事①(6) 試験・発表：テスト(8) | | | | | | 雑踊り：取納奉行(12) 創作舞踊：かりゆし太鼓(10) 八重山舞踊：小浜節(10) 扮装法：着付け②結髪(8) 郷土文化：郷土文化コース紹介作成(8) 試験・発表：テスト(4) | | | | | | 創作舞踊：かりゆし太鼓(6) 扮装法：着付け②化粧(6) 郷土文化：琉歌について(6) 校外学習：歌碑巡り(10) 試験・発表：テスト発表(4) | | | | | | ま と め 鑑 賞 | | | | |
| | 3年(6単位) | シヨ ン | | | | | | | | | | | | 古典舞踊：揚作田(10) 雑踊り：鳩間節(2)貴花(4) 八重山舞踊：赤馬節(8)鳩間節(6) 組踊り：執心鐘入(4) 扮装法：着付け①(4) 郷土文化：世界遺産・沖縄の地図(4) 校外実習：交流&発表(6)施設見学(6) 試験・発表：テスト(4) | | | | | | 古典舞踊：港くり節(6) 雑踊り：加那コ(6)谷茶前(8) 八重山舞踊：マミド(6)慶ぬ鳥(6) 小浜節(6)大魚節(6) 創作舞踊：小道具を使った創作(10) 扮装法：着付け②結髪①化粧①(8) 郷土文化：伝統工芸・コース紹介作成(12) 校外学習：交流&発表(12)歌碑巡り(16) 試験・発表：テスト(10) | | | | | | 八重山舞踊：鳩間節(2) 創作舞踊：わらべうた(6) 扮装法：着付け・結髪(4) 郷土文化：伝統工芸体験(6) 校外学習：歌碑・施設(12) 試験・発表：テスト(4) まとめ(2) | | | | | | | | | | |
| | 選択C(2単位) | 古典舞踊：かぎやて風(14)創作舞踊：夢南瓜(8)試験・発表(4) | | | | | | | | | | | | 古典舞踊：かぎやて風(4)創作舞踊：貴花遊びと美ら島エイサー(8)安波節(6)ポップス(14)扮装：着付け①(4)試験・発表：テスト・鑑賞・まとめ(10) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 副科 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 琉球古典楽器、創作太鼓、空手・古武術(20) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和5年度 実用書道シラバス

沖縄県立南風原高等学校

| 科目名 | 単位数 | 学年 | コース | 必修・選択 | 使用教科書 |
|------|-----|----|---------|-------|-------|
| 実用書道 | 2 | 3年 | 普通総合コース | 選択 | なし |

1. 科目の概要及び目標

- (1) 表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な書活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性をさらに高めていく。
- (2) (1)の学習を通して、個性豊かな表現能力と書の実用性を感じ取れる鑑賞能力を伸ばしていきながら、実用的な表現力と鑑賞力も高めていく。

2. 成績評価

- (1) 学習態度等の平常点（20%）
各時限の課題への取り組み方、授業への参加状況等を評価する。
- (2) 提出物・・・ワークシート等（40%）
 - ・各時限の課題を意識しながら書くことができているか。
 - ・各時限の課題を理解した上で、各時限の自己評価を自身に付けることができているか。
- (3) 課題達成点・・・提出作品等（40%）
各単元のまとめの作品を各時限の過程を踏まえて完成させることができているか。
上記、(1)、(2)、(3)の状況を踏まえ、総合的に評価する。

3. 授業の展開と形態

- ・実用書道の授業における創造的な活動を通して、更に書を愛好する心情を育てる。
- ・書くことだけにとらわれない多くの書に関する活動を通して、自身のテーマにそった作品を創造することができる。

4. 学習方法

- ・多くの表現方法を学ぶことで感性を高め、自身の中でテーマ設定した創作作品を作る。

5. 年間学習指導計画

| 月 | 学習内容 | 月 | 学習内容 | 時間 |
|--------|---|---|--|----|
| 4 | 拓本を取ってみよう ・拓本とは ・必要な道具作成 ・拓本取り | 4 | 10 大字書 ・紙面効果と作品について ・意図に基づく表現 | 10 |
| 5 6 | 墨絵 ・紙面構成と効果について ・墨絵の技法 | 8 | 11 美術館鑑賞 ・美術館鑑賞のマナー ・書作品の鑑賞 ・鑑賞の共有 | 8 |
| 6 7 | うちわ制作 ・墨絵と文字の融合 ・紙面構成 | 8 | 11 12 小楷書 ・般若心境を書く | 10 |
| 7 | 篆刻 ・游印について ・印面構成について | 4 | 1 2 仮名の学習 ・紙面構成と効果について ・意図に基づく表現 | 10 |
| 8 9 | 淡墨 ・淡墨の作り方 ・にじみについて ・作品制作 | 8 | | |

総時数70

| 科目 | 対象学年 コース | 単位数 | | | 使用教科書(会社名) | | | | | | |
|---|---|-----|---|----------------------------------|----------------------|--|----|----------|------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 造形基礎 | 3年B選択 | 2 | | | 無し | | | | | | |
| 科目の目標 | 造形に関する基礎的な技能、幅広い表現活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と関わる資質や能力を育てる。 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | | | | | | | | | | |
| 1、関心・意欲・態度 | | | 2、発想や構想の能力 | | | 3、創造的な技能 | | | 4、鑑賞の能力 | | |
| 創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする | | | 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている | | | 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表している | | | 美術や美術文化を幅広く理解し、その良さと美しさを創造的に味わっている | | |
| 評価の方法 | ・制作へ取り組む姿勢、制作の準備から後片付けまでに関心意欲とする ・作品、ワークシート(計画や制作の記録、自己評価、鑑賞メモなど) ・鑑賞、発表とまとめ | | | | | | | | | | |
| 月 | 時数 | 領域 | 単元名 | 学習目標(ねらい) | 指導内容 | 月 | 時数 | 領域 | 単元名 | 学習目標(ねらい) | 指導内容 |
| 4 | 1 | | オリエンテーション | 1年間の目標と授業への姿勢を身につける | 授業の方針や留意点等確認 | 11 | 12 | 工芸 | 陶芸「器づくり」 | 成型法から釉がけ法・焼成法 | 陶芸の基礎造形方法から応用造形までを体験する |
| 5 | 3 | 絵画 | 平和のメッセージ絵画 | 平和な世界を築くために必要な思想を絵によって表現する | マインドマップを利用して構成する | 12 | 4 | 鑑賞 | 美術展を企画しよう | テーマを決め、自分の作品展を企画し発表する | 美術館や作品の展示に興味を持ち自分なりの作品展を企画する事を楽しむ |
| 6 | 2 | 鑑賞 | 幼児画・児童画について | 成長期によって、表現の仕方が違うことを理解する。 | 自己体験や参考画をみて研究する | 1 | 8 | 平面 | 製品をデザインしよう | 機能性と美をデザインする能力を育てる | 生活製品を鑑賞する中から、デザインを創造する技術を学びとる |
| 7 | 8 | 絵画 | 風景画 | 透視図法を理解し描くこと | その他空気遠近法なども併せて学ばせる | 2 | 10 | 映像メディア表現 | 写真によるコラージュ | 切って貼り重ねることで異空間の作成法を学ぶ | 3D的な効果技術を習得し自分自身の世界を表現 |
| 9 | 8 | 彫刻 | 粘土による人体造形 | 立体的な感覚を学ぶ テーマ「人体」 | 人体の構造の構造を理解 | 3 | 6 | 鑑賞 | 作品展示 | 他者の作品を鑑賞し、良さを感じ取る | 展示作業や作品鑑賞を通して、表現することの喜び |
| 10 | | 工芸 | 陶芸「シーサー制作」 | 沖縄の文化を学び、陶芸の魅力を感じ取り、制作する喜びを感じさせる | 陶芸の基礎法を学び、独自のシーサーを作る | | | | | | |

令和5（2023）年度 選択B 保育ピアノ シラバス

| | | | | | | | |
|------------------|--|---------------|-------------------------------------|---------------------------|---|----|----|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 選択B 保育ピアノ | 単位数 | 2 | 対象 | 3年 |
| 科目の分類 | 必履修 芸術（選択 音楽） | | 履修順序 | 保育系の進路を希望、3年普通総合コースのみ履修可。 | | | |
| 科目の目標 | 1. キーボードに慣れ親しみ、基礎的な演奏知識の習得や演奏技術の向上を目指し、それぞれの進路に役立てる 2. 生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を育てる。 | | | | | | |
| 教科書 主な教材 | 単元に合わせたワークシートや楽曲を使用する。 | | | | | | |
| 学習内容 (概要) | 基礎的な演奏知識の習得とキーボード実技 | | | | | | |
| 学習の ポイント | 実技練習、ワークシート学習、実技テスト | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読み様々な伴奏を弾くことができる。 ・生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を育てる。 | | | | | | |
| 評価の方法 | ①授業態度 ②準備物 ③授業での提出物 ④実技練習 ⑤題材ごとの評価の観点 ⑥学期末考査及び実技試験をもって評価する。学期末考査についてはペーパーテストを実施する。 | | | | | | |
| 学習の展開＜年間指導計画の概要＞ | | | | | | | |
| | 単元または項目 | | 学習のねらい | | 主な学習活動（教材等） | | |
| 一 学 期 | 4 | ①音階の練習 | ①指番号や鍵盤の位置を理解し、弾くことができる。 | | ①指番号を覚え、鍵盤を正しい指づかいで弾く。 | | |
| | 4 | ②楽典(1) | ②楽譜の読み方やリズムの読み方等、基本的なことについて知る。 | | ②音符の名前、拍の取り方等を理解させる。 | | |
| | 7 | ③童謡を弾こう | ③指番号に気を付け簡単な伴奏を弾くことができる。 | | ③ちょうちょう、きらきら星、チューリップ等を両手で演奏する。 | | |
| | 9 | ④課題曲に挑戦しよう | ④両手で1曲弾くことができる。 | | ④課題曲の中から選択した曲を練習し、発表する。 | | |
| 一 学 期 | 5 | ①楽典(2) | ①コードネームについて理解する。 | | ①コードネームを理解し、コードを用いた伴奏が弾けるようにする。 | | |
| | 5 | ②コードネームで伴奏しよう | ②コードネームを見て和音で伴奏を弾くことができる。 | | ②コードネームを読み、構成音や指の形を理解して演奏できるようにする。 | | |
| | 10 | ③伴奏付けをしよう | ③コードネームを用いて曲にふさわしい伴奏を考えて演奏することができる。 | | ③様々な形式の拍子の曲を用いて、伴奏の形を理解する。 | | |
| | 10 | ④好きな曲に挑戦しよう | ④演奏したい楽曲を選び演奏することができる。 | | ④個々の実態に応じた選曲やアレンジを行い最後まで弾けるようにする。 | | |
| 三 学 期 | 5 | ①楽典(3) | ①音楽記号について理解する。 | | ①強弱記号や速度記号等の音楽用語を理解し、音楽表現を創意工夫することができる。 | | |
| | 10 | ②発表会をしよう | ②練習曲を発表する。 | | ②これまでの学習を生かし、自分なりの音楽表現を工夫して演奏することができる。 | | |
| | 1 | ③1年間のまとめ | ③生涯にわたって音楽を愛好する心情や態度を育てる。 | | ③1年間の授業を振り返り、今後の進路へ役立てる。 | | |
| 総 時 数 | 70 | | | | | | |